

# としま TOKARA 議会だより

令和2年3月 発行（年4回発行）Toshima Village Council 2020.03 NO.88



**議会だよりの表紙を飾る写真募集中です！**

島の風景や行事など魅力ある一枚をお待ちしています。お問い合わせは議会事務局まで

▲ 平島地域づくり活動の様子（東之浜港の壁画作成）

## TOPIX

### ○令和元年12月定例会

12月9日～12月10日（2日間）

条例の制定・改定 5件  
補正予算 6件  
決算の認定 6件  
権利の放棄 1件

### ○一般質問 3件

・日高久志 議員 . . . 2P.  
・田中秀治 議員 . . . 2P.  
・永田和彦 議員 . . . 3P.

## 港湾整備・母子父子家庭の受入れ

**○日高議員** フェリーとしま2は、現在も2か島において、ランプウェイ使用制限または接岸条件付きの航海がある。港湾整備を行ってはいらぬが、解消される時期は何年度を予定しているのか。

**○肥後村長** 村の港湾整備については、殆どの港が約40年前の昭和50年代から、本格的な整備を進めている。現在整備している防波堤兼用岸壁については定期船の就航率を高めることを第一の目標としている。接岸条件等の具体的な解消時期については、沖防波堤や岸壁整備の事業計画が立たないなかでは示すことができないが、島民並びに関係者には大変な不便をかけているところである。村としても定住対策や産業振興を進めらう



日高久志 議員

えで大きな損失となっており、村としてもこれまで以上に港湾設備費用を投入し、重点事業のひとつとして整備を進めてきている。今後についても長期展望となるが、方針に基づき財源の確保に努めながら早期解決に向けて取り組んでいきたいと考えている。

**○日高議員** 各島人材不足の中、母子家庭・父子家庭の受け入れについても積極的に進んでいくべきと考えるが、見解を問う。

**○肥後村長** 我が国は、急激な人口減少、人手不足が影響して地域社会が大きな変革期を迎えている。本村においても、地域での人材確保や育成が困難な状況にあり様々な分野での人材の確保が求められている。そのような中で、定住対策と人材確保対策として、既にシニア世代やシングルマザー等の受入を積極的に進めているところである。今後も安心して子育てができる環境や、働く場所の確保を整備するとともに、各方面に情報発信を行いながら、あらゆる人材の受け入れを進めていきたい。

## 農業振興・推奨作物

**○田中議員** 年々農業生産量が減少している中で、本村農業の根幹をなす推奨作物13品目の出荷額は昨年度の926万円である。本村農業は崩壊状態にあるのではないかと。

**○肥後村長** 本村の耕種農業は、自然災害や小規模圃場、担い手不足、流通問題等の関係から、多種品目による少額売上で取り組まなければならない現実があるため、崩壊しているとは考えていない。ただ後継者不足による担い手問題については深刻な状態にあると受け止めている。

**○田中議員** 推奨作物について、以前「住民の中から声が無い限り、新たな投資や作物導入は控える」と発言があったが、行政として無責任ではないか。住民に指針を示



田中秀治 議員

し、実行していくのが行政の務めであると思うが、考えを問う。

**○肥後村長** 地元農家から、意見交換の場において「施設や機材の設備関係は現在必要としていない。現状の経営が手一杯で、他の取り組みは困難な状況。それよりも農業に従事する仲間が必要である」との声が上がってきている現状である。このような状況から、まずは人材確保を優先し、行政主導での新たな作物の導入は現在のところ控えるべきと考えている。農家からのボトムアップ的な提案があれば前向きに検討していきたい。

**○田中議員** 作物の販売先の確保についてはどのように考えているか。

**○肥後村長** トカラインターフェイスが主な販売先となり、市場との連携やふるさと納税の返礼品の窓口も担っている。販路について行き詰まるとはいないと認識している。

任期満了までの村政運営

○永田議員 村長は今任期の就任にあたり7つの公約を立てているが、その達成状況については自身でどのように評価しているか。

○肥後村長 1期2期ともに定住対策について積極的に取り組んできた。平成23年からは6年連続で人口が増加している。平成29年からは増減を繰り返しているが、11月末時点で73名の増となっている。産業振興の面では、平成30年に畜産農家の販売総額が初の3億円を突破した。この4年間において繁殖雌牛預託制度や各種補助制度を概ね継続した事や、牛舎や牧場の基盤整備を進めてきたことが要因となっていると考えられる。生活環境については、郵便局の無かった4島に簡易郵便局を開局し、安心した預貯金の管理



永田和彦 議員

等が整ったところである。また医療福祉関係では看護師の2名体制や、交通政策についてはフェリーとしま2の就航によって村民や利用者の利便性向上が図られたと思う。超高速ブロードバンド整備については、令和2年度の陸上部分の敷設工事をもって完成することとなっている。4年間の取り組みについて、村民との約束は概ね達成しつづけると考える。

○永田議員 これまでどのような思いで職員の人財育成に臨んできたか。

○肥後村長 他の自治体より条件不利地域である本村において職員の資質向上は避けられない状況にある。今後も職員の研修制度の強化を図り、地域担当職員制度による職員と地域との連携強化にも取り組んでいきたい。

○永田議員 次期村長選挙に出馬する考えがあるか。

○肥後村長 村民の理解が得られるようであれば、更なる飛躍を目指した島づくりの実現に向けて、3期目の挑戦をしたいと考えている。

議決結果

十島村議会 令和元年12月議会 議決結果

18案件を審議 全て全会一致で原案の通り可決しました

開催期間 12月9日～12月10日 (2日間)

審議した案件 村長提出議案 18件

可決・採決状況 原案可決 18件

可決した主な議案

- ・令和元年度補正予算について (6件) ・条例制定、改正について (5件)
- ・権利の放棄 (1件)
- ・決算の認定について (6件) ※決算審査については5～8ページに掲載

令和元年度補正予算

○一般会計	補正第3号	+	188,055千円	→	補正後	4,857,864千円
○国保会計	補正第1号	+	8,726千円	→	補正後	134,282千円
○船舶会計	補正第2号	+	6,213千円	→	補正後	1,092,143千円
○介護会計	補正第2号	+	130千円	→	補正後	95,684千円
○簡水会計	補正第2号	+	14,996千円	→	補正後	85,153千円
○診療会計	補正第2号	+	8,972千円	→	補正後	215,826千円



**条例の制定・改正****○十島村会計年度任用職員退職報償金支給条例制定の件**

会計年度任用職員については、制度上、期末手当が支給されることから、その財源確保及び業務の実態から、勤務時間を見直し縮減することとした。そのためこれまで退職手当組合に加入していた者が加入要件から外れることとなったため、現在の十島村非常勤職員退職報償金支給条例を改め、新たな職として改めて採用する会計年度任用職員に退職報償金を支給することができるように規定するもの。

**○十島村退職報償金基金条例制定の件**

会計年度任用職員の退職報償金の財源を安定的に確保するために十島村退職報償金基金を設けるもの。条例の中では、管理の方法を最も確実かつ有利な方法により保管することや、必要に応じて有価証券に替えることができることを定めている。初年度は既存の職員で、会計年度任用職員として継続する職員、31名分14,870,000円を積み立て、翌年度以降、毎年2,000,000円程度（令和2年度は1,990,000円）を積み立てる見込み。

**○十島村職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定の件**

令和元年度の人事院勧告及び鹿児島県人事委員会の勧告を踏まえ、本村職員等の給与の適正化を図るための条例の改正。

**○印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例制定の件**

社会において旧姓を使用しながら活動する女性が増加している中で、様々な活動の場面で旧姓を使用しやすくするという女性活躍推進の観点から、住民票、個人番号カード等への旧氏の記載が可能となることに伴い、旧氏による印鑑登録を行うことができるようにする改正。並びに、成年被後見人等の人権が尊重され、成年被後見人等であることを理由に不当に差別されないよう、成年被後見人等を資格、職種、業務等から一律に排除する規定等の欠格条項を設けている各制度について、心身の故障等の状況を個別的、実質的に審査し、各制度に必要な能力の有無を判断する規定へと適正化するためのもの。

**○十島村産業振興資金条例の一部を改正する条例制定の件**

給油所については、安全上の観点から全島に整備する計画となっている。その上で、共同、個人を問わず、商店について、その整備及び運営資金を貸し付けられるようにする改正。意欲のある個人商店が、給油所の運営に参入する、または、給油所の運営に限らず、新たに個人商店を開設する、若しくは、既存の商店を拡充する場合も、貸付の対象とする。

**権利の放棄****○権利の放棄について（十島村黒毛和種優良肉用繁殖雌牛預託事業）**

十島村黒毛和種優良肉用繁殖雌牛預託事業により導入した繁殖雌牛が、心不全により死亡したことから、金銭債権を放棄しようとするもの。飼養管理については、日頃の管理は適正に行っており、管理者に責任がないと判断できるものであった。

## 〈総務課〉

### 問 商品券の納税について

**答** 商品券などを扱う自治体に寄付者をとられてしまった印象がある。一番人気のバナナやタンカンなどの主力商品が不作であったり、台風の影響で出荷できない状況が重なった。今後も担当課と連携し、生産者への働きかけを継続的に行っていきたい。

### 問 消防団のなり手対策や研修について

**答** 現在は昨年度より4名増えた61名となっている。令和元年度の6月議会でも年齢の上限を70歳に引き上げたが、65歳以上の団員はまだいない。現在1名の方からは声がかかっており、入団に向けて調整を行っている。消防学校の研修について、平成31年度は10名申し込みをしていたが、3名は台風の影響により参加できなかったため、7名の参加となった。今後についても、鹿児島支部の消防士による現地指導会の開催も含め、参加について団員に強く

求めている。

### 問 地域づくり事業について

**答** 現状の取り組みについては、平成29年から各島で話し合い活動を行っている。島の良いところや悪いところを話し合い、地域課題を明確にすることが目的で、今何が必要かを担当職員も含めて共通認識として持つことが改めて大切であると感じている。地域の話し合い活動の頻度としては、少なくとも各島年2回は行っている状況である。また、広報としま9月号から、各島の活動状況を掲載するコーナーを設けている。

### 問 避難施設整備(発電機)について

**答** 各島避難所の発電機の整備はまだ稼働していない。現在設計の段階で、事業完了までは2、3年かかると予想している。現状で災害が起った場合の対策については、九州電力から提供のあった各島2台から3台の発電機で対応していきたいと考えている。

ている。

## 〈地域振興課〉

### 問 畜産振興(競争意識の向上)について

**答** 生産意欲を高める手段として、競争意識を生むことも必要だと思うが、先ずはどうかの島で成功者を出すことが必要だと考える。そのためには農業の技術面の対策以上に、人材確保が優先されることである。



### 問 後継者問題について

**答** 後継者人材の確保については、定住イベント等で募集をかけている。荒廃した圃場であっても、営農指導員によると3年ほどで復活できるとのことである。後継者としてITターン者や地域おこし協力隊などあらゆる人材を活用し、圃場を借り上げて再生を目指すことも一つの手段だと考えている。

### 問 定住促進対策について

**答** 最近は一時期のような家族連れの転入者が減少傾向にある。単身で移住される方も多くなっており、移住イベントを開催した際にも、家族連れの移住希望者が見受けられないような状況である。むしろ、十島村から家族で転出するようなケースも多くなってきたり、新たな対策を分析のもと進めていかなければならない。単身者ももちろん歓迎しているが、ご家族の移住があった場合、地域力の向上に繋がる可能性が高い事を考えた場合には、何らかの支援策を検討する時期に来ている。

### 問 島歩きマップ作成事業について

**答** 平成30年度から各島のマップを作成している。委託先の事業者と、事業者が選定したコーディネート、また島の観光ガイドと連携して、実際に観光客が島を歩いて回れることを想定して制作

しているものである。これま  
での観光パンフレットとは  
異なり、歩くことを前提とし  
た時間設定やコースの選定  
など、1島1島に特化した内  
容としている。設置箇所は、  
出張所やフェリーとしま2  
船内としている。



### 問 カレンダー製作事業につ いて

**答** 主な配布先としては友好  
島民に入室している方への送  
付、また関係機関の配布も行  
い、PRを行っている。カレンダ  
ーに対する意見についても積  
極的に伺うようにし、効果検  
証を行っていききたい。

### 問 トカラ列島島めぐりマラ ソン大会について

**答** 参加者に十島村の魅力を

発信するとともに、特産品を  
食したり伝統芸能を見たり参  
加してよかったという満足感  
を少しでも感じていただきた  
い。地元負担も非常に大きい  
中、住民には毎年協力をいた  
だいている。特に地元婦人会  
の方々の負担は大きく、食事  
メニューの関係などは栄養  
士とも調整を進めている。島  
の魅力を発信できるおもて  
なしは維持しつつ、住民の皆  
さんの負担軽減も図れるよ  
う、来年度以降はどういう改  
善ができるか検討していき  
たい。

### 〈土木交通課〉

### 問 村道中之島南廻線につ いて

**答** 中之島南廻線について  
は道路法面災害復旧工事や、  
梅雨後、台風後において度々  
の通行止めが発生している  
状況ではあるが、国の重要施  
設もある中で、日頃から側溝  
の清掃など適切な維持管理  
に努めたい。現在道路の整備  
は、社会資本総合整備交付金

事業を活用し、改良や新築を  
行っている。現在の中の島地  
区においては、中之島海岸線  
の護岸施設や、中央線の舗装  
補修工事、御岳線の法面工事  
等々、複数路線を整備計画の  
中に盛り込んでいく。島内の  
他路線との兼ね合いも含め、  
財政状況等を見ながら対策  
を検討していききたい。

### 問 電線等支障木伐採事業に ついて

**答** 平成25年度から27年度  
までは複数の島で同時に伐  
採を進めていたが、近年は中  
之島や宝島において集落付  
近の松枯れ被害が大きい事  
から、島を絞って事業を進め  
ている。地域によって対応可  
能なものについては、危険の  
及ばない範囲で賃金作業も  
活用しながら対策を講じて  
いききたい。

### 〈船舶交通特別会計〉

### 問 自動車航送等の実態につ いて

**答** 以前は車を予約しても

中々乗せられないといった  
声もあったが、そのような問  
い合わせは減少傾向にある。  
ただ、荷物が多い時期や欠航  
が続く時期については1ヶ  
月以上待つ方もいる状況で  
あり、完全な解消には至って  
いない。なお、先代の船だと  
規定は乗用車7台、中型トラ  
ック1台であった。新船は乗  
用車15台、中型トラック3  
台の合計18台となっており、  
軽自動車や普通のトラッ  
クであれば約30台までは積  
める状況である。またクレ  
ー車なども積むことができ、  
台数的な伸び以上に利便性  
が図られている。

### 〈簡易水道特別会計〉

### 問 停電時の配水給水につ いて

**答** 平成30年度の台風によ  
って中之島において3日間の停  
電があり、その中で一部地域  
に停電があった。楠木地区に  
おいては数世帯が加圧ポンプ  
を使用しており、電力が供給  
されない中で断水が起った。



諏訪之瀬島と小宝島については淡水化施設であるので、電力が停止すれば当然稼働できなくなる。非常用発電機等の整備については、現時点において水道専用としての整備はない。配水池の容量としては、諏訪之瀬島で約60tあり、1日当たりの使用量が約30tであるため、2日分は貯水できている状況にある。小宝島についても、配水池容量が50tで、1日当たりの使用量が10t〜13tである。それ以外にも、大型タンクや飲料水の備蓄によって対策をしている。



### 〈住民課〉

#### 問 老人クラブ交流事業について

**答** 現在4島において老人クラブを設立しているが、今後

残りの3島の設立を目指していききたい。他島との交流を行うかは地域次第であり、先ずは各島の組織の方々の気持ちを高めるような活動を行うっていくことが大切であると考えている。

#### 問 廃自動車離島支援事業について

**答** 依然として、島内には放置自動車がある状況である。何らかの処置を行わなければ次第に持ち主も分からなくなる。海岸や住宅内に放置してあるナンバーの無い車の実態把握を早急に行いたい。平成30年にも実態調査を行ったところであるが、所有者の判明しているものについては再度通知していきたい。



#### 問 子育て世代包括支援センターについて

**答** 平成30年度に子育て世代包括支援センターを設置し、保健師と子育て支援員とペアになり活動している。近年相談実績も増えてきており、内容はメンタルや子供の発達障害、不妊治療のことなど様々である。各々の相談に対して、村独自の助成制度などもあるため、利用されやすくなっていると考えている。子育て支援拠点事業については、保育士の人材確保が一番の課題となっている。現在、JICAやシングルマザー向けの定住イベントなどに積極的に参加するなどして情報発信も行っているが、中々移住へ結びつかないところである。一人でも多くの方に村の保育や子育て支援に関わっていただけるよう、丁寧な情報発信を行うとともに、子育てしやすい環境を整えていきたい。また、十島村で子育てを希望される方は、家族と過

す時間や、生活の環境面を大切にされる方が多いので、専門機関が無い中で、更に相談をしやすい体制を作るなど、5年後も10年後も子育てを続けていけるような環境づくりを目指していきたい。



#### 〈国民健康保険特別会計〉

#### 問 特定健康診査・特定保健指導について

**答** 平成30年度については栄養士や看護師、保健師と連携を行いながら指導をしてきた。結果、令和元年度においては保健指導実施完了率も74%と向上している。数名ではあるが、血圧が下がったり中性脂肪が減ったりと効果が出てきている方もおり、継続していけば高血圧や糖尿病の重症化を予防できると感じている。さらにプロ

プログラムの充実を図りながら、重点的に取り組んでいきたい。

〈教育委員会〉

問 JETプログラム事業について

答 子ども達は朝から帰るまでALTと一緒にいることになる。ただ英語の学習をするのではなく、給食や体育、掃除などALT自身もとても距離感が近く接してくれている。事業開始からの変化については、子ども達がネイティブの英語をきちんと聞き分けることができるようになってきている。特に中学生については、発音についても目覚ましくよくなってきた。地域の中でも、見守り支援施設で高齢者と交流するなど積極的に進めていただいているので、今後は島中で英語が飛び交うような村になればいいとも考える。任期の三年間についてはぜひ島で生活していただきたく、島を挙げて盛り上げていただきたい。

議員研修会を行いました！



◀ 議員研修会の様子  
(役場4階会議室)

12月11日(水) 役場会議室にて議員研修会を開催しました。鹿児島県町村議会議長会の三原誠次長に講師を依頼し、「一般会計決算審議についての一考察」というテーマのもと、約2時間の研修となりました。

今後の決算審査の際の政策提言を行うにあたり、大変参考になりました。

12月議会ライブ中継視聴者数

島名	12/9	12/10	計
口之島	0	1	1
中之島	1	2	3
諏訪之瀬島	0	1	1
平島	3	0	3
悪石島	1	1	2
小宝島※	—	—	—
宝島	1	1	2
計	6	6	12

※小宝島はインターネット不調により中継不可

編集後記

今回の議会だよりは、3名の議員の一般質問、決算委員会のまとめを中心に編集しています。12月の議会ライブ中継視聴者数は右のとおりです。ぜひ3月議会においても多数の視聴をお待ちしております。

議長 松下直志  
議会広報調査特別委員会  
委員長 永田和彦  
副委員長 日高久志  
委員 前田功一  
委員 日高助廣  
委員 田中秀治  
委員 坂元勇  
委員 矢野紀道